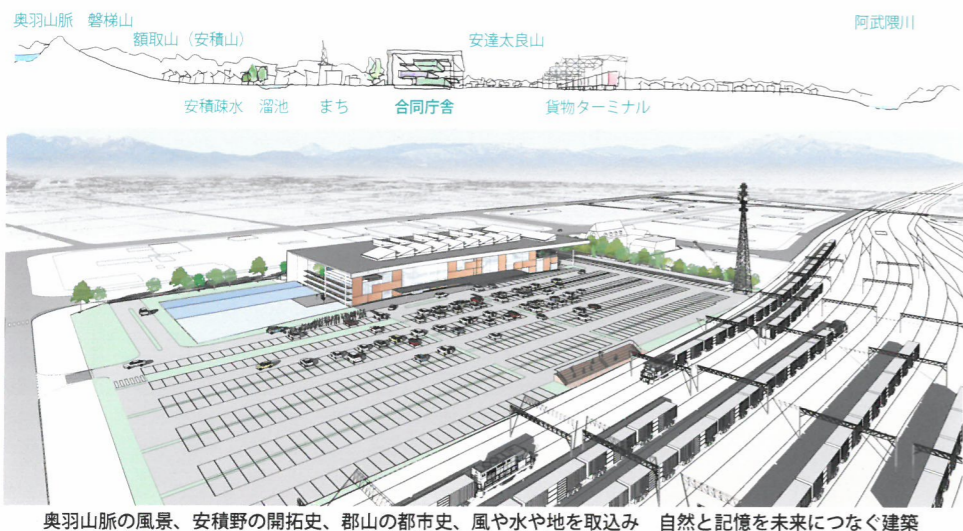
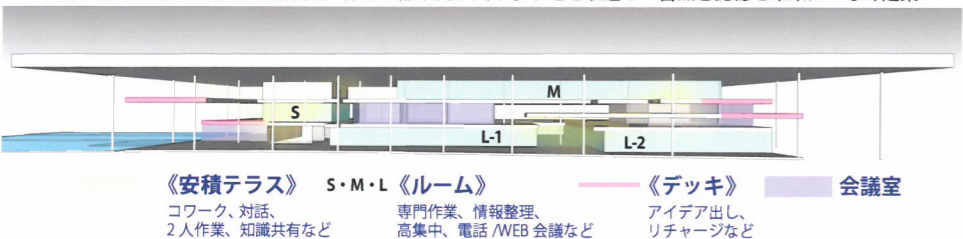


## 1. 自然と記憶を未来につなぐ庁舎

郡山は、明治時代に開削された「安積疎水」により、大きく発展します。その水源である奥羽山脈は、人々の原風景です。また、阿武隈川に注ぐ細かな河川が浸食した微地形や溜池は、まちに多様性と潤いをもたらしています。一方で計画地は、東洋一の規模と言われた「国鉄郡山操車場」でした。現在の貨物ターミナルは、当時の様子を今に伝えます。そのような地域の特性を生かし、県中の地に馴染み、永く愛され、地域の誇りとなる庁舎を提案します。



奥羽山脈の風景、安積野の開拓史、郡山の都市史、風や水や地を取込み 自然と記憶を未来につなぐ建築



## 3. 新しい生活様式や働き方に対応し、多様な交流の場となる庁舎

(1) 県民の利便性向上及び快適な執務空間の確保に関する提案

### 3-1 | 業務内容に応じて選べる《安積テラス》《ルーム》《デッキ》

関係機関を同一階に配置し、各課の場所が一目でわかる見通しの良い空間とします。機能的で閉じた空間と、低密度で開放的な空間の両方を用意。ABW（アクティビティ・ベースド・ワーキング）にも対応し、自然エネルギーを活かし、感染症対策にも十分な換気能力をもつ多様な執務環境を提供します。

#### 《安積テラス》共用部および ABW ゾーンとして低密度で開放的な空間

- 丘や谷が折り重なる安積野の微地形を想わせる大小さまざまな居場所
- 自然に近い光環境や通風、環境的なゆらぎを多様性として受容する
- 床輻射冷暖房、機械換気+自然換気（中間期）、高効率照明+自然採光
- 床輻射冷暖房に最適で、耐久性に優れたモルタル系床仕上げ

#### 《ルーム》執務室として常に安定した環境を提供する閉じた空間

- 必要以上に開かないシンプルな矩形平面の機能的な空間
- 施錠により閉庁時《安積テラス》の県民利用も可
- ドラフトを感じない快適な天井輻射冷暖房
- 機械換気（中間期は外気冷房/感染症対策にも十分な換気量）
- タスクアンビエント照明、カーペットや家具による吸音

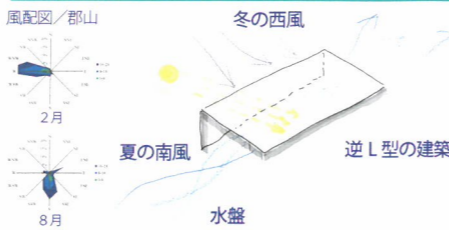
#### 《デッキ》奥羽山脈をのぞみ 季節の移り変わりを感じる もう一つの執務空間

- 北に安達太良山、西に磐梯山や額取山、南に那須岳連峰を望む
- 《安積テラス》同様、来庁者と職員との打合せ場所としても利用可
- 植栽に囲まれ、リフレッシュに最適な半屋外空間

3-2 | 《ルーム》は、3フロアそれぞれに S・M・L のサイズバリエーション 3つの《ルーム》は独立しながらも《安積テラス》を介して連携・連動し合います。

- 1階 L 広がりある空間。窓口もゆったり取れる外周廊下型。2分割し中廊下型も可能
- 2階 S コンパクトで独立性が高く、今後想定される県以外の機関の入居にも最適
- 3階 M 長い直線カウンターが特徴。細かく複数のセクションに分かれる組織に最適

## 2. 自然に生かされ、自然を生かす庁舎



### 2-1 | 風の流れの中の逆 L 型建築

郡山では、冬期、奥羽山脈から強い西風が吹き下ろし、夏には阿武隈川の流れに沿った心地よい南風が吹き抜けます。逆 L 型の建築で西風を遮り、南風を積極的に取込みます。

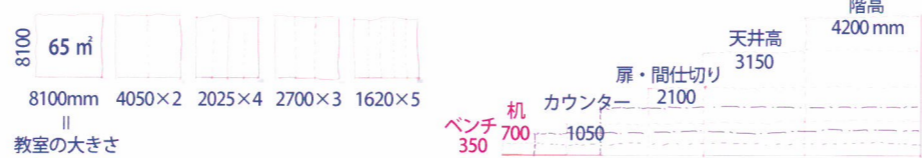
### 2-2 | 水を生かし、景観向上、環境性能向上をはかる

計画地は、国鉄民営化に伴う土地区画整備事業で生まれました。当時の整備方針は、「水と緑を生かした都市形成」です。その後 20 年経過し、舗道の緑も豊かになりました。わたしたちは、大きな水盤をつくり、さらなる景観向上効果、庁舎の環境性能向上をはかります。郡山の近代化を支えた「安積疎水」の歴史も踏まえ、区画整備事業のコンセプトを引き継ぎます。



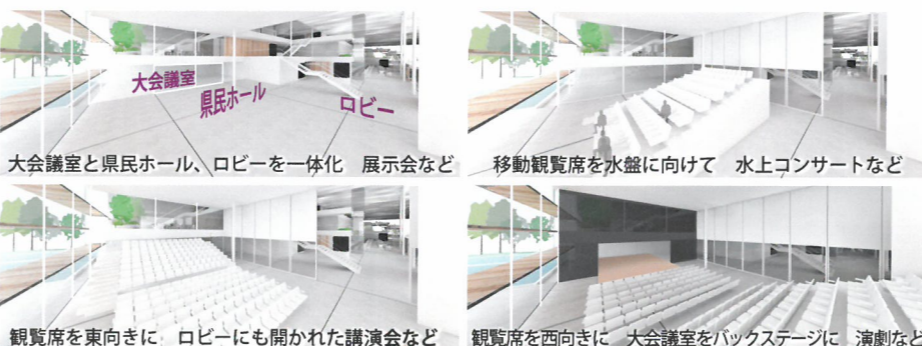
### 3-3 | 平面方向 8.1m 高さ方向 4.2m、柔軟性ある合理的なモジュール

8.1m×8.1m≒65 m<sup>2</sup>は、およそ教室の大きさです。8.1m は、大スパン構造からヒューマンスケールの家具まで対応する柔軟性の高いモジュールです。一方で階高を 4.2m と設定します。扉や間仕切り、カウンターや机、ベンチの高さまで対応する合理的なモジュールです。それらにより、将来の組織改編にもフレキシブルに対応できる平面・断面計画とします。



### 3-4 | 音楽活動も盛んな郡山に、新たな県民交流の場

県民ホールを 200 席の格納型自走式移動観覧席をもつ多機能スペースとします。展示会、コンサート、演劇、講演会など、人々の多様な交流の場となります。設計期間を通して、県民ホールのソフトづくりにも注力します。

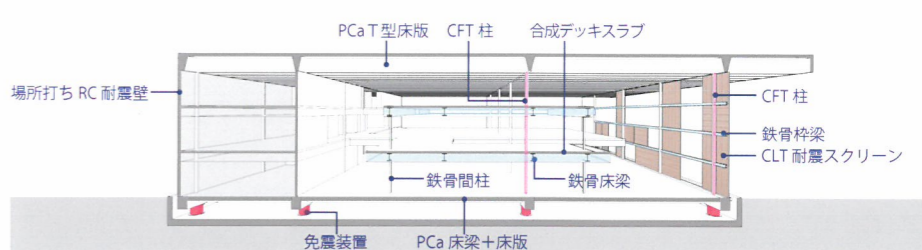


## 4. 災害対策地方本部にふさわしい免震構造

(2) 県民の安全・安心の拠点となる庁舎のあり方に関する提案

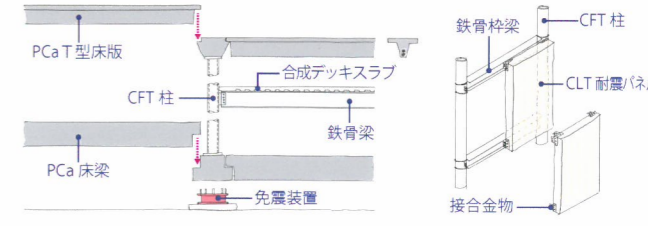
### 4-1 | 西側に配置したボリュームが西風を遮り、水平力を負担する

日常のコミュニケーションや連携が生まれやすく、災害時の避難も容易な 3 層の建築とし、加えて免震構造を提案します。各階分散配置が望ましい書庫を西側に集約させ、冬の西風を遮り、穏やかな内部環境を構築するとともに、水平力を負担する耐震要素とします。



### 4-2 | PCa (プレキャストコンクリート) で柱脚数を減らし免震コストを抑える

大屋根 PCa ロングスパンにより柱本数を減らし、免震コストの抑制をはかります。大屋根を支える柱に CFT（コンクリート充填鋼管構造）を採用し柱径を抑えます。柱の陰がなく見通しの良い、家具レイアウトの自由度も高いフレキシブルな執務空間を創ります。東側ファサード面には、県産ラミナ材による CLT（直交集成材）を用いた耐震スクリーンを設けます。



4-3 | 地域の生活文化を受け継ぐ耐震スクリーン

福島県産の味わい深く頑丈な山葡萄の蔓の民芸品。CLT耐震スクリーンに、その編み方を応用します。貨物ターミナルへの視線の抜け、自然採光、断熱、そして耐震要素として、意匠・環境・構造が高次に統合されたスクリーンです。新幹線や在来線に対する庁舎の顔にもなります。



4-4 | 高い防災機能と事業継続性をもつ庁舎

- 自然採光、重力換気、太陽光発電、地中熱利用、井水・雨水利用など、外部インフラに頼らない自然エネルギーによるバックアップシステム
浸水に備え、電気機械室・自家発電設備・サーバー室・備蓄庫等は上階へ
眺望のきく2階会議室Aを災害情報拠点に。屋外から直接アクセス可
1階県民ホール+大会議室を一体化し、災害活動拠点に。屋外へ開放も可
駐車場の車止めを低く抑え、自衛隊などの活動を容易に。貯水機能も
駐車場にかまどストールの設置を検討。炊事体験WSやレシビ募集等
深い軒下、北側駐車場を電気自動車対応に。多様な電源確保
大屋根で雨水を集め、水盤と基礎ピット内貯水槽へ。洗浄や散水に利用

5. パッシブとアクティブを組合せ、人と環境に優しい庁舎

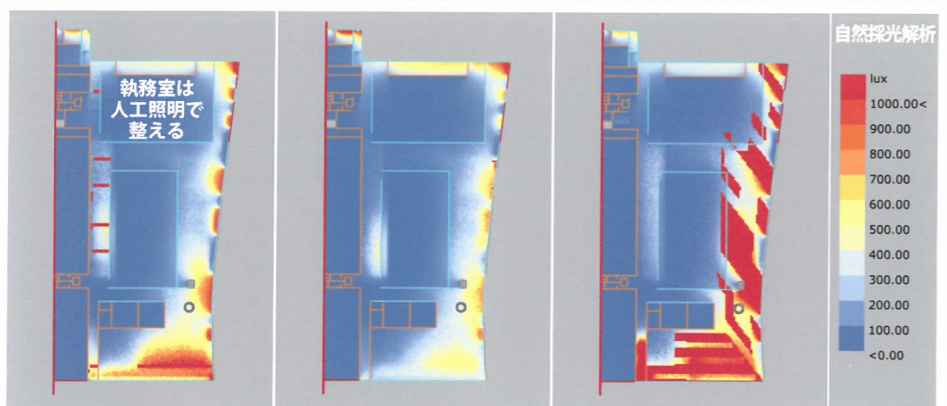
(3) 人にやさしく、環境に配慮した庁舎のあり方に関する提案

5-1 | 2050年カーボンニュートラルの実現に向けたnearly ZEB庁舎

再生可能エネルギーを積極的に導入します。大屋根や南面水平ルーバーによる深い庇、屋根や壁面の十分な断熱、Low-E 複層ガラス、700kW 太陽光発電パネルの設置、人感・昼光センサー付きLED照明、地中熱利用ヒートポンプの導入など。ゆとりある階段を随所に設け、昇降機の使用頻度を抑え、BEMSの導入により、適正な運用・管理とその見える化を図ります。

5-2 | 季節や時間の移ろいを映し出す自然採光

朝日を受け入れる東面のファサードや西陽を遮る西面のボリューム。郡山の太陽経路に沿い、自然光を操り直射光を制御するルーバーやハイサイドライト、スクリーン等が季節や時間に応じた豊かな視環境を生み出します。



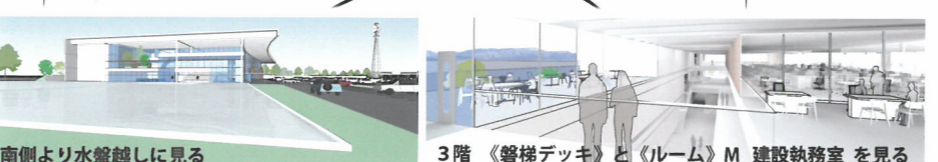
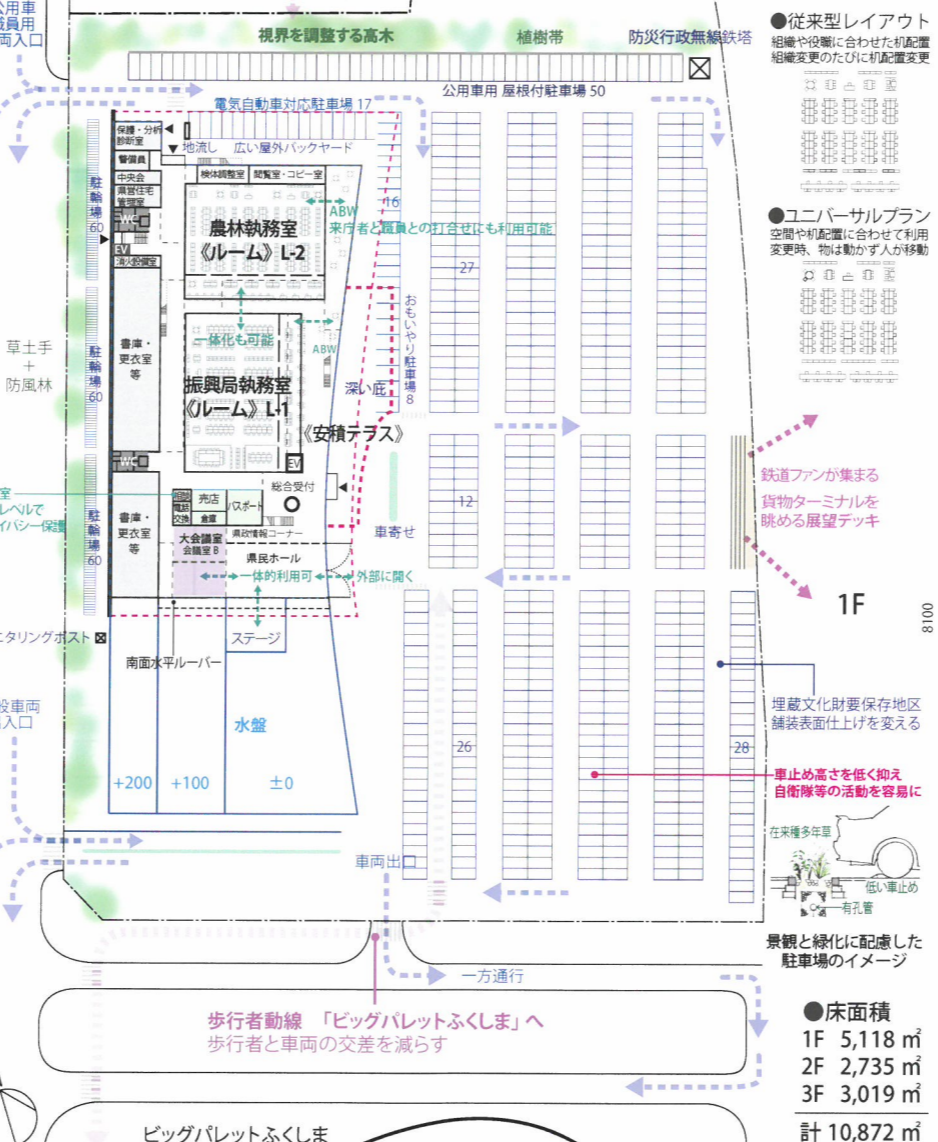
3月21日(春分)12:00 全般に適度にバランスよい明るさ
6月21日(夏至)14:00 西陽を防ぎ控えて涼し気な明るさ
12月21日(冬至)9:00 朝日が暖かさを促し、身体を活性化させる

5-3 | だれにもやさしい、きめ細かなユニバーサルデザイン

ますます多様化、多国籍化する社会。だれにもわかりやすいサイン計画、迷うことのない回遊動線とします。車椅子利用者、LGBTQ+にも配慮したトイレ廻り、オストメイトや授乳機能も備えます。「人にやさしいまちづくり条例施設整備マニュアル」に準拠し、エレベーター、階段、通路、手摺、駐車場、補助犬への配慮など、きめ細かなデザインを実施します。

5-4 | 郡山の穏やかな通風を促す大屋根

中間期に南風が卓越する郡山市。南側に大きく開き南北に延びる《安積テラス》、そして南風を誘引する大屋根のハイサイドライトが、館内の換気を促し、0.2~0.4m/sの穏やかな自然通風を実現します。日常的には、省エネ・感染症対策に貢献し、インフラ途絶時には、事業持続性に寄与します。



5-5 | SDGsの理念を踏まえたLCCO2、LCE、LCC環境負荷の低減策

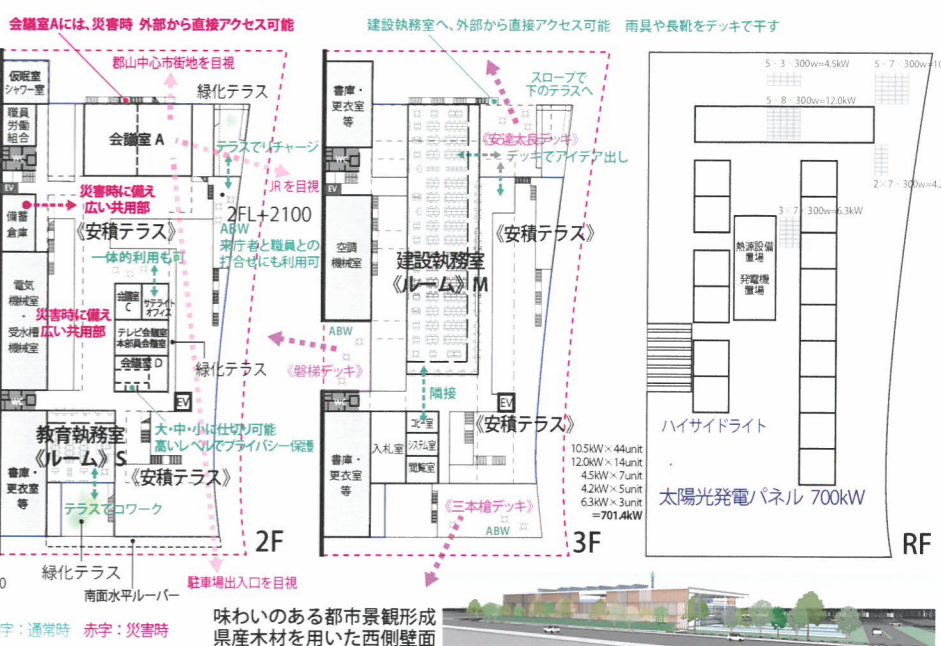
大屋根のPCaを県内生産とし、輸送コストや型枠材料の削減、工期短縮、構造体の品質向上と長寿命化を実現します。また、PCa化により、深刻な施工者不足に起因する工事費アップを抑制します。さらに、施工中の騒音を軽減し、隣接する結婚式場に配慮します。以下、その他の主な低減策です。

- 基礎工事による発生土の場外搬出を避け、外構計画に利用
基本モジュールによる規格化・プレファブ化をはかり、現場作業量を軽減
県産ラミナ材を用いた強靱さと透明感を併せ持つCLT耐震スクリーン
将来の機器更新に配慮したゆとりある設備諸室と配管配線スペース
外構に遮熱性舗装を採用、夏季昼間路面温度を-10℃、夜間放熱量も低減
現合同庁舎(旧郡山市庁舎)を歴史文化資産として改装・民間活用も提案



5-6 | 水と緑、木と石を生かす

中通りは内陸性照葉樹林帯に属し、屋敷林の形成も見られます。福島の自然の多様性を表現し、季節の移ろいが感じられる植栽計画とします。県産木材による内装木質化をはかります。奥羽山地産の安山岩や阿武隈高地産の花崗岩を外装や外構や生かします。水盤には棚田状の段差を設け、水に動きと音を持たせます。水盤の清掃は、子ども達の水遊びを兼ねた県民参加のイベントとします。



6. 喜びを共有できる建築 (4) 社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎のあり方に関する提案

感染症やDXなどの影響により、時間と場所の制約から解かれ、非接触であることが望ましいとされる現在、人と人のコミュニケーションの原点である「共に分かち合う喜び」が損なわれています。《安積テラス》《ルーム》《デッキ》を通じ、わたしたちは、時間と空間を共有する喜びが感じられ、お互いの存在を認め、敬い、協働や連携が自ずと生じる建築を提案します。

6-1 | ユニバーサルプラン 協働や連携が生じやすく、組織再編にも対応

柱の少ない大スパン構造により、ユニバーサルプランの良さを最大限に引き出します。その他、以下のような事項に留意します。

- 建物の長寿命化を促すスケルトン&インフィルの設計手法、仕上材に抗菌素材を採用
来庁者対応スペースと執務スペースは、隣接しながらも明確に分離
来庁者用カウンターは、プライバシーや感染症に配慮した衝立付き、車椅子用、立ち形式、デスク形式など、利用者の状況や用途に応える多様なバリエーション
カウンター利用者用ポケベル型wifiデバイスを導入(=病院)、待ち時間ストレス解消
個人情報扱うパスポートセンターや相談室は、独立した部屋に
おもいやり駐車場は、エントランスに近接し、深い庇の下で安心して乗り降り可能
駐車場は、景観と緑化に配慮、歩行者にも安全、降雪時に除雪しやすいレイアウト